



# 愛媛の田舎に惚れました

内子町地域おこし協力隊 岡山 紘明



## 内子町の旧小田町で活動中

内子町地域おこし協力隊の岡山紘明です。2019年3月に引越し、4月から協力隊に任命され、半年余り活動しています。私の任務は内子町内の旧小田町エリアの地域活性化です。中でも1 空き家・空き店舗活用、2 小田中央商店街の活性化、3 小田地区全体の情報発信、の3つに軸を置き、活動しています。

そしてこれから3つの軸を網羅するプロジェクトとして、商店街内にあった空き店舗「旧土居書店」をリノベーションする「どい書店



小田中央商店街はおよそ20店舗が残るのどかな通り

プロジェクト」を実施しています。どい書店は現在、まちの図書館、イベントスペース、ミーティングスペース、シェアオフィス、シェアハウス、地元の子どもたちの遊び場、休憩所など、多用途に使われています（書店という名前ですが本は売っていません（笑）。アクセスは最寄りのJR「内子駅」から車で25分、ほぼ買うものが無い店ですが、町内外から月におよそ300〜400名を集客する場となっています。



パン屋さん＆料理人とどい書店にて即売会を行いました



どい書店外観写真。運営メンバーの平均年齢は24歳です

## 全く知らなかったまち、内子

私は1994年兵庫県神戸市に生まれました。15歳から現在まで建築や都市計画、農村計画を専攻しています。内子町との縁は2017年の春、所属する東京大学大学院の研究室で「内子町歴史的風致維持向上計画」の策定プロジェクトに参加したことから始まりました。

内子町は町並み保存で有名な町です。それまで僕は古い町並みにあまり関心がありませんでした。むしろ内子町内の農山村にある美しい田園風景や山道を抜けると出てくる、手入れされた集落になんとも言えない感動を覚えました。そういった集落が何箇所もあり、日本の田舎に寂れているイメージが払拭されました。「いつかこんな場所で農村風景を作っていくような人間になりたい」と、将来を考えた記憶があります。

2018年の夏、僕は大学院2年になり、研究室、アルバイト、学業、進路など様々なことが上手くいかず、プレッシャーに押し潰されていました。それと